

教育目標「考える子 思いやりのある子 たくましい子」



せんだんの木

伊勢崎市立茂呂小学校 学校だより No.16 令和7年12月12日



人権週間 本校の取組

本校では、10月31日（金）から12月5日（金）までの約1カ月間、人権集中学習として、子どもたち一人一人に人権に関する標語を考えてもらったり、各クラスで人権に関するビデオを視聴したり、3年生が人権教室で人権やいじめ防止について学習したりするなど、様々な活動をとおして人権について考え、人権意識が高まるよう取り組んできました。教室の廊下等には、ご家庭で考えてきた一人一人の素晴らしい人権標語が掲示されました。



3年 人権教室より

本日12月12日（金）に動画視聴による人権集会が行われました。まず、学年代表の児童一人一人に人権標語を発表してもらいました。その後、人権に関する話として、「人権とは、誰もが幸せに生きることが認められること」「一番大切なのは『誰もが』、でも一番難しいのも『誰もが』」「人はみんなちがう。ちがいがあるのに、からかわれたりいじめられたりしたらあわせなのだろうか」といった内容で人権について見つめてもらいました。今年度の人権集中学習としては終わりになりますが、人権意識を維持、継続させるためには、学校での指導に加え、ご家庭の協力が不可欠となります。よろしくお願いいたします。

【学年代表の人権標語について】

	※配信された学校だよりでご確認ください。	

人権集中学習を終えて ～改めて、いじめ防止の徹底・協力を～

現在、社会問題として、子どもが「うざい」「消えろ」「死ね」などの言葉を友達に言ったり、SNSなどに書き込んだりすることで、人の心を傷つけ、いじめとして重大事案に発展することがニュースになるなどしています。子どもにとっては、「うざい」などの言葉は、ゲームやテレビ、インターネット等の中で使われ、見て聞いて頭に残り、つい言ったり書いてしまったりする言葉なのかもしれません。しかし、一度使われた言葉は、取り返しのつかないことになる場合があります。友達に対して使ってよい言葉かどうかや適切な言葉の使い方は、学校・家庭・地域の私たち大人が子どもに対して、その都度、繰り返し繰り返し教えてあげる必要があります。

本校でも、今回の人権集中学習の取組をもとに、友達を大切にすることや違いを認め合うことを引き続き指導しつつ、もし、人の心を傷つけたりいじめにつながる言葉を言ったり、書いたりするなどのことがあれば、そうした言葉を言われたらどう思うかなど、自分に置き換えて考えさせたり、人を傷つける言葉は使わないように教えたりするなど、適切に、そして毅然と指導していきます。ぜひ、ご家庭でも今回の人権集中学習でお子さんが考えた標語等を振り返っていただく中で、人を傷つける言葉などについても話題にいただき、一緒に考えていただく機会にしてみてください。これからもご家庭のご協力をお願いいたします。

